

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学だより

W ぶどうの樹



発行者 長崎学院
 企画・編集 総務課企画広報係
 〒852 8065
 長崎市横尾 3 15 1
 TEL095 840 2000(代)
 FAX095 840 2001
 kikaku@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

平成十九年度長崎県 「学生さんのまちおこし・地域づくり事業」に 本学学生グループの取り組みが採択!

長崎県が、学生の持つ斬新な発想と行動力をまちおこしや地域づくりに活用するため実施する平成十九年度「学生さんのまちおこし・地域づくり事業」に本学学生（留学生を含む）の「時津 桜桃グループ」の企画が採択されました。応募総数二十六件の内九件が採択されていますが、そのうちの一件として現在事業に取り組んでいます。

今回はグループの代表である長崎外国語大学英語アメリカ文化コース三年高谷悠さんに事業について報告してもらいました。

私たちのテーマは、時津町の魅力を多言語で発信することです。日本語・英語・中国語・スペイン語・韓国語で、時津の魅力を世界にウェブページを通じて知らせる事を目的に、様々な調査を続けております。

十二月に中間報告会、二月に最終報告会が行われます。それに向けて日々時津町に関する様々な文献を調査し、並行してフィールドワークとして時津町の名所や旧跡を回り、調査を行っています。

同時に、調査結果を発信するために必要な情報処理技術

を磨き、また、ただ文章を訳すのではなく翻訳としてプロの訳ができるようになるための勉強も並行して行っています。

翻訳に関しては、自分たちの力では限界があるとは思いますが、先生方のご指導を得てよりレベルの高いものにしていきたいと思っています。これまでのフィールドワークについても自分たちが今まで知らなかった、時津の魅力を知り、そして何よりも第一に地域のために何をすべきかと考



える機会となり、非常によい経験となっています。

地域活性化、そして地域の魅力というものを世界に広めるために何が出来るか、この事業はそのひとつの答えであると、私たちは考えています。そして何よりも外国語大学だからこそできる取り組みです。この事業を行う上で力になつてくださっているのがNPO団体コミュニティ時津の皆様です。コミュニティ時津の皆様には時津町に詳しい方がいらつしゃって、調査をする上でのお言葉もいただいております。

今後も時津町の魅力を多言語で発信すべく努力を続けてまいります。皆様よろしくお願ひします。

時津 外大桜桃グループ
 代表 高谷 悠

去る十一月三日、四日の二日間に行われた第五十七回外語祭が開催されました。今年の外語祭のテーマは「ちゃんぽん」で、長崎名物ちゃんぽんがスープの中でいろんな具によって絶妙な味を醸し出しているように、文化や人種の違い、意見がすれ違う人間同士もお互い足りない味を出し合って、互いに理解し合い、共生していこうという想いでこのテーマが付けられました。一日目には、七言語による朗

読発表会や英語劇、外国人留学生対抗漢字クイズ大会など外国語大学ならではのプログラムと共に、ゲストライブ、ファッションショー、3 on 3大会、お茶会など様々な催しが行われました。二日目は、時津町龍踊り保存会の



テーマ
 「ちゃんぽん」

第五十七回 外語祭

皆様による龍踊り、近隣地区の子供たちによるダンスなど地域の方々との交流の輪を広げるプログラムで賑わいました。また、本学フラム部やダンス部など、各サークルが日頃の練習の成果を披露しました。二日間とも



いただいた地域の皆様、学内外の関係者の皆様に感謝いたします。
 （学生支援室 学生係 前田紀子）

池田学長 第66回西日本文化賞受賞



贈呈式

長崎外国語大学・短期大学池田統一学長が第六十六回西日本文化賞の学術文化部門を受賞し、贈呈式および祝賀会が西日本新聞会館の福岡国際ホールで開催された。

今年度の受賞者には、社会文化部門の佐木隆三氏や第十四代酒井田柿右衛門氏などが名を連ねている。贈呈式では、受賞者の令夫人、令嬢も招かれ、西日本文化賞を主催する西日本新聞社長より賞状と目録、副賞が各人に手渡された。その後場を移して祝賀会が催された。会の中で各受賞者から挨拶があり、その中で池田学長は、一時は受賞をご辞退することも考えたが、幼少時より購読してきた西日本新聞の賞をいただけるのは大変光栄である、と挨拶した。各受賞者の挨拶に対し、出席者らから盛んな拍手が起こった。

西日本文化賞の概略
昭和十五年より西日本新聞社から文化の進歩に貢献し、先駆者として努力した人たちにその業績をたたえ、よりいっそうの精進を祈り、未来の日本文化の確立を念願するため送られている。戦時の中断を積み、今年で第六十六回を数え三百以上の個人、団体に贈られている。

受賞理由
独文学研究やユング著書の翻訳に尽力するとともに、日独文化交流の発展に寄与した功績
ゲーテやビュッヒナー、トーマス・マンなどのドイツ文学に関し優れた研究論文を発表し、日本における研究水準を高めた。並行して、難解なため手付かずだったユング後半生の代表作「心理学と錬金術」「結合の神秘」を翻訳、ユング心理学の日本での啓発に寄与した。主な研究テーマは、ユング錬金術心理学から見た「ファウスト」と「魔の山」。「長くても決して飽きさせない」と評判の情熱的な講義はおおくの学生に影響を与え、後進の研究者を全国の大学に送り出している。日本独文学会西日本支部長として学会の発展にも尽力し、世界の独文学者が集う日本で初めてのアジア地区ゲルマニスト会議を福岡市に誘致し、大会委員長を務めた。
学術的活動にとどまらず、市民と積極的に交わり、九州における日独交流の推進にも力を傾注。西日本日独協会会長として、二〇〇五、〇六年に全国各地で行われたドイツ文化紹介イベント「日本におけるドイツ年」を成功に導いた。(西日本新聞社「第六十六回西日本文化賞受賞者業績」より抜粋)

平成十九年度 秋学期 入学式

平成十九年九月二十六日(水)、本学ホールにて平成十九年度秋学期入学式が挙行されました。



入学式

正規・短期含む総勢九九名の外国人留学生が夢と希望を胸に抱いて式にのぞみました。式では
入学生を代表して
外国語学部国際コミュニケーション
ケイシヨ

池田学長西日本文化賞 受賞記念講演開催決定!

演題「ドイツ文学に見るクリスマス 自然・故郷・幼年時代」
クリスマス物語の珠玉、オーストリアの作家シュテューファターの短編『水晶』を紹介しながら、この聖夜の物語とドイツ文学の重要な主題の一つである「自然・故郷・幼年時代」との深い結びつきについてお話しします。

日時
二〇〇七年十二月十八日(火) 十六時半～十八時

場所 本学ホール

問い合わせ先
長崎外国語大学・短期大学 電話〇九五 八四〇 二〇〇〇

ン学科のイン エイミさんが「建学の精神と教育方針に則り、自己の人格を高めるよう努める」と力強く宣誓しました。

平成十九年度 秋学期 卒業証書 学位記授与式

平成十九年九月二十八日(金)、本学ホールにて平成十九年度秋学期卒業式が挙行され、大学十八名、短大一名が新たな旅立ちの日を迎えました。

一人ひとりの名前を読み上げ、卒業証書並びに学位記の授与を行いました。



卒業証書・学位記授与式

を厳しく見つめ直すことができたと謝辞を述べました。

池田学長は「世の風潮に付和雷同することなく、自分の行動には自分で責任を持ち、これまでの経験をバネにして活躍してください」と式辞を述べました。

卒業生代表のピヨウ コウイさんは、「外国語を学ぶということがそこには暮らす人々を理解すること、相手の理解を得るために自分自身を厳しく見つめ直すことができたと謝辞を述べました。」と謝辞を述べました。

聖書雑感(四)

小西 哲郎

「主はカインに出会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしろしを付けられた。」(創世記四章一五節)

最初の間であるアダムとエヴァの長男カインは、自分ではなく弟アベルの献げ物に神様が目を留めたことに腹を立て、弟を殺してしまいました。その罪ゆえ「地上をさまよい、さすらう者」とされ、命の保証さえなくなったカインに、神様は守りのしるしをつけました。

ぼくが長男を「加音(カイン)」と名付けたとき、父も恩師もいぶかりました。父は有島武郎の「カインの末裔」に描かれる荒くれ者のイメージから、また恩師はカインが新約聖書では一貫して悪者扱いであるためだったと思います。しかし「人類は、禁断の果実を食べ神から離れてしまったアダムとエヴァの、さらに殺人まで犯してしまったカインの子孫である」というのが聖書本来の人間観だと思えます。そしてこの話は本来、そのような罪深い者さえも守りのうちにあり、という神様の懐の深さを語ったものだと思えます。いい名前でしょう? (学院宗教主任)

旅程管理研修(国土交通大臣登録研修機関)報告



ホテルでの研修中

旅程管理研修が今年より開講されると知り、私はすぐ受講したいと思いました。それまで漠然と旅行に携わる仕事に就きたいと思っていた私は、将来少しでも役に立てばという気持ちで受講を決意しました。

中国語中国文化コース四年
江原 明希さん

旅程管理研修がスタートして半年以上が経ち、基礎研修、指定研修及び研修旅行を終えて旅程管理主任者資格を得た修了者が続々と出てきています。
今回は、第一回集中講座修了者の本学学生に旅程管理研修の内容などについて報告してもらいました。

国内研修が終わわり、旅程管理主任者としてデビューすることになりました。前日は緊張し、集中講座で使っていた教科書を何度も見直していました。ツアー当日は業務をこなすだけで精一杯で、バスの中マイクを握ると声が震え、

座最終日にはテストがあり、それに合格すると実務研修へと移ります。国内実務研修では添乗員の同行する実際のツアーに研修生として付いて行きました。行き先は、湯布院・黒川温泉でした。バスの後ろの席に座り、添乗員がお客様とどのように接するのか、どのように旅程を管理するのかなどができ良い経験になりました。

まず八日間集中講座を受けました。そこでは、旅程管理主任者の基本的な業務と心得旅行に関する法律や海外旅行に必要な英語などを学びました。法律や専門用語など覚えることがたくさんありましたが、先生方は添乗をしてきたときの興味深い体験談を時々聞かせてくださり、毎回授業が楽しかったです。集中講座最終日にはテストがあり、それに合格すると実務研修へと移ります。国内実務研修では添乗員の同行する実際のツアーに研修生として付いて行きました。行き先は、湯布院・黒川温泉でした。バスの後ろの席に座り、添乗員がお客様とどのように接するのか、どのように旅程を管理するのかなどができ良い経験になりました。



左が原稿執筆者の江原明希さん

2007年度「旅程管理研修」中間報告

*受講者数と修了者数(10月終了分まで)

受 講 者				
集中講座	受講回	学内	学外	合計
基礎研修	第1回(4月)	4	2	6
	第2回(6月)	1	0	1
	第3回(8月)	13	0	13
	第4回(10月)	-	-	-
指定研修	第1回(5月)	4	7	11
	第2回(7月)	0	3	3
	第3回(8・9月)	12	3	15
	第4回(10月)	1	4	5
長期連続講座		35	0	35

修 了 者			
	学内	学外	合計
国内旅程管理研修	0	10	10
総合旅程管理研修	14	4	18

実務研修旅行修了者			
	学内	学外	合計
国内 (日田・湯布院温泉・黒川温泉1泊2日)	1	1	2
海外 (ニューカレドニア5泊6日)	4	1	5

*今後の予定について
・第5回基礎研修は12月に、第5回指定研修は1月に開講します。
・実務研修旅行は、12月に香港で、2月下旬にハワイで実施を予定しています。
・2008年度のスケジュールは、現在調整中です。



5人の実務研修生

頭の中が真っ白になることもありましたが、一回一回とツアーを無事終了させていくと、どうしたらお客様は満足してくれるのだろう、どうしたらツアーをより充実したものにするのできるのだろうと考えるようになりました。このようなことを考え始めた頃、講師の吉川先生のもと海外実務研修へ行くこととなりました。行き先は赤道を挟んで日本の真下にあるニューカレドニアでした。実のある研修にしたいと思い、研修前に観光地や交通機関、特産品などをまとめました。ツアー終了間際お客様から「楽しかったよ」など嬉しい言葉をかけていただき、資格を取りこうして働くことができ良かったと実感します。ときには厳しいお言葉をいただくこともあります。

海外研修を終え無事総合旅程管理主任者の資格を取得し、今は大学に通いながら週末は旅程管理主任者として働いています。ツアー終了間際お客様から「楽しかったよ」など嬉しい言葉をかけていただき、資格を取りこうして働くことができ良かったと実感します。ときには厳しいお言葉をいただくこともあります。以前より調べべきポイントをつかむことができ、そして九月十日先生方と学生五人計七人でニューカレドニアへと向かいました。私は研修中空港での団体受付と、現地で皆を離島に連れて行くのを担当させてもらいました。団体受付の仕方は集中講座で学んでいましたが、実際に体験することができ良い経験になりました。ほとんど面識の無かった皆と一緒に研修間となりました。

が、改善する点を教えてもらえたことに感謝し次に生かすよう努力しています。旅程管理主任者になって、この仕事には人の出会いがたくさんあることを改めて知りました。何の接点もない方々と知り合うことができる「出会い」がこの仕事の大きな魅力だと感じています。今後は旅程管理主任者としての経験を積んでいく一方、いづれ必要になる語学も磨き続けていきたいです。漠然と旅行業に就きたいと思っていた私に、最初の一步を踏み出すきっかけを作ってくれた「旅程管理主任者」との出合いに感謝しています。

が、改善する点を教えてもらえたことに感謝し次に生かすよう努力しています。旅程管理主任者になって、この仕事には人の出会いがたくさんあることを改めて知りました。何の接点もない方々と知り合うことができる「出会い」がこの仕事の大きな魅力だと感じています。今後は旅程管理主任者としての経験を積んでいく一方、いづれ必要になる語学も磨き続けていきたいです。漠然と旅行業に就きたいと思っていた私に、最初の一步を踏み出すきっかけを作ってくれた「旅程管理主任者」との出合いに感謝しています。



ニューカレドニアの水上コテージ

卒業生トピックス

今回は、教員採用試験に合格した三名の大学卒業生のみなさんに寄稿していただきます。寺田さんは、すでに長崎県佐世保市の中学校で教鞭をとっていらっしゃいます。谷口さんと田原さんのお二人はそれぞれ今年度の福岡市と長崎県の教員採用試験に合格されました。



寺田 光孝

生徒と共に生きる

二〇〇七年、春。長崎外国語大学での四年間の学生生活を終え、四月から佐世保市立日野中学校で英語教員としての生活が始まりました。現在は一年三組、三十一名の担任です。一年生五クラスの英語の授業と一年生の選択英語を受け持ち、放課後は男子ソフトテニス部の顧問として指導にあたっています。大学での生活とは違い、教員としての生活は学級経営、教科指導、部活動指導、生徒指導、初任者研修と慌ただしい日々の連続ですが、充実した時間を過ごしています。教員として、また社会人として、未熟で力不足な私を、日々成長させてくれるのは、周りにいらっしゃる先生方のサポートであり、また他でもない目の前にいる生徒の成長そのものです。赴任一週間後に行われた入学

式では、小学生らしさの残る幼げな生徒たちとの運命的な出会いがありました。式典の中で、生徒一人ひとりを呼名しながら、「この子たちが私の最初の教え子になる。しっかりと育ててみせる。」と胸を熱くしたのを覚えています。クラスで一致団結して取り組んだ秋の体育大会、男女が互いを信頼しながらハーモニーを生み出した合唱コンクール、規律やルールを守って過ごすことのできた野外宿泊学習。このように生徒は日々違った表情を私に見せてくれます。生徒の成長に一喜一憂しながらも、私自身、「どつしたこの子たちをよりよく指導できるのだろうか」、「どうしたらわかりやすく英語を教えられるのだろうか」と大きく成長させてもらっているように感じます。時には心を痛めることもあり、「乗り越えらるるから与えらるる」-ピンチはチャンス-とプラス思考で考え自分を励まし、生徒を信じ、頑張っています。多くを経験しながら、人間としても教員としても、深みのある教育者になっていきたいと思っています。今は教員であることの喜びを感じています。私の大好きな一年生のみんなへ。よくつし、英語やるぞ!



谷口 麻理

教員採用試験に合格して

今年四度目の挑戦で、福岡市教員採用候補者選考試験に合格することができました。小学校の頃から「夢だった」-学校の先生になること-が現実になる喜びと同時に、教職の責任を果たしていくことの重大さを改めて感じています。大学四年時の教育実習で、「絶対に先生になる」と決意を新たにしたもの、卒業後は何もわからないまま高等学校で非常勤講師と常勤講師を経験しました。副担任や部活動の顧問、校務分掌と様々な



田原 和美

through all my fortunes

「ようやくやり着いた」採用通知を手にしたとき、心の底からそう思いました。Taylor's "through all my fortunes" (紆余曲折をへて)の字句通り、今日に至るまでさまざまなき事がありました。たくさんの人々との出会い、数々の経験はまさに fortune (「財産」の意味)であり、夢の実現に欠かせない存在でした。外大との出会いもその一つです。入試説明会で本学の特徴を知り、ここなら自分の夢を叶えられるかもしれない、

経験をしたものの、自分の英語力に自信が持てず悩んだ時期がありました。そこで、その後の約半年は、英会話教室に通い詰める等、英語力の向上を図りました。そして、英検やTOEICで結果を出すことで、自信へつなげることができました。その後、中学校で非常勤講師を経験し、今年四月からは別の中学校で常勤講師をしています。一年生所属で、特別支援学級の副担任です。特別支援学級には、週に一時間授業に行く他、帰りの会や給食の時間、休み時間等にも関わりをもち、楽しい毎日を送っています。もちろん、通常学級にも授業に行っています。一年生に英語を教えることの大変さや大切さ、楽しさを感じる毎日です。採用試験までは、朝早めに

学校に行つて勉強したり、先輩の先生に協力していただきながら語彙力を補強したりしました。一次試験当日は、一つ一つの試験に対して最後まで集中して取り組みました。八月には大学の同時通訳養成講座を受講し、また一つ自信へとつなげることができました。二次試験までは、面接試験に備えて自分の考え等をまとめたり、校長先生に指導案を見ていただいたりしました。そして、子どもたちの声援に元気をもらい、すべての試験で自分を出すことができたように思います。来年四月からも日々の積み重ねを大切に、大好きな英語を教えたいことの喜びを感じていきたいです。そして、子どもや保護者との関わりを通して、私自身も成長していきたいと考えています。第二外国語と教養科目の履修に関して、当初は授業についていけないだろうかと不安がありました。長年、学習の環境から遠ざかっていたため、生じたものでした。いざ蓋を開けてみると、「次は何が学べるのだろうか」と期待にあふれる自分の姿がありました。「外国語とは母語以外のすべての言語を指す」とことや、物事を深く考え、かつ多角的にみることの重要性に改めて気付かされました。このように、外大でも言い尽くせないほどの fortune に恵まれました。教員に必要な資質および能力を、外大と二人三脚で培ったからこそその合格だと思っています。 Thanks for being in my life!!